

ふるさとへの想いをカタチに

# 寄附でつながる故郷のまちづくり



## ■本町への寄附額がはじめて1億円を突破

町では、平成20年度からふるさと納税制度を活用し、『ふるさと甲佐応援寄附金』として受付を行っています。

ふるさと納税制度とは、生まれ育った故郷や応援したい自治体への寄附を通して地方自治体を応援できる制度です。手続きを行うと、寄附額のうち2千円を超える部分が、所得税の還付や住民税の控除を受けられます。また、町外在住の寄附者には、町の特産品などがお礼の品として贈られ、寄附を通して地域経済への貢献にもつながります。

町では、平成29年度以降、寄附の受付をワンストップで行えるポータルサイトを導入しつつ、町内事業者と連携して返礼品の充実を図るなど寄附の受け入れ拡大に向けて取り組んできました。

本町への寄附額は熊本地震後に大きく増加し、たくさんの方から復旧・復興への支援をいただきました。また、昨年度はコロナ禍での巣籠り需要なども追い風に、

寄附受付ポータルサイトの充実などで前年比約8倍増！

R3年度  
（9月末時点）  
1億518万円

R2年度  
9413万円

熊本地震後に全国から多くの支援で前年比約14倍に！

過去最高となる9413万円の寄附が寄せられました。

本年度の寄附額は、さらなるポータルサイトの拡充や新たな返礼品の掘り起しなどが実を結び、9月末時点ですでに1億円を突破。本町への寄附額が1億円に届いたのは、受付を開始して13年目にしてはじめてであり、現在も前年を超えるペースで寄附が寄せられています。

▼お問い合わせ先

町地域振興課

096-2334-1154  
(内線232)



## 寄附がまちづくりの大きな力に

町総務課  
郷 史嘉 参事  
(南阿蘇村出身)



ふるさと納税制度で寄せられた多くの寄附金は、自主財源に限られる本町にとって大きな力となっています。甲佐の地を離れていても、故郷を想う心は伝わります。町では、皆さんから寄せられた温かい心とその想いを引き継いで、新しいまちづくりを進めていきます。

☎096・234・1140  
(内線224)

▼お問い合わせ先  
町総務課

■寄附者の想いに応えるまちづくり

町では、「ふるさと甲佐応援寄附金」で寄せられた寄附を「ふるさと甲佐応援基金」として積み立てており、寄附者の想いに沿ったまちづくりに活用しています。

寄附者は、本町への寄附を申し込むときに次の4つの用途を選択できます。

- ①ふるさとの環境・景観保全
- ②人々の安心安全なまちづくり
- ③明日を担う子どもの育成
- ④特に指定なし（熊本地震からの復旧・復興）

皆さんからいただいた寄附金は、必要に応じて各事業に活用されます。これまでの活用実績は町公式ウェブサイトで公開しています。ここでは、昨年度、基金を活用して実施された事業の一部をご紹介します。わたしたちのふるさとを応援する温かい想いが、どんなカタチになったのかご覧ください。

## 1. ふるさとの環境・景観保全



### ■緑川への稚鮎放流事業

かつてお殿様の舌を喜ばせた甲佐の鮎。香魚とも呼ばれる鮎は、主食のコケがよく育つ清流を好む魚です。甲佐の豊かな自然環境を象徴する鮎の資源保全のために、令和2年度は約6万匹を緑川に放流しました。

## 2. 人々の安心安全なまちづくり

### ■消防施設等整備計画策定事業

突然襲い来る火災から地域を守るためには、防火水槽や消防車両、消防ポンプといった消防施設などの定期的な更新が必要です。いざというときの備えとして不可欠な消防施設などの整備計画を策定しました。



## 3. 明日を担う子どもの育成



### ■学校ICT整備・活用事業

日々の授業だけでなく、学習支援ソフトを活用した学びの質の向上を図るため、タブレットや電子黒板などのICT機器を整備しました。自然災害による休校時でも、子どもたちの学びの保障につながります。

## 4. 特に指定なし（熊本地震からの復旧・復興）

### ■甲佐町交流拠点備品整備事業

熊本地震からの創造的復興を担う交流拠点施設。町内外から訪れる多くの人々が甲佐町の魅力に触れ合い、地域と交流できる施設となるために必要な備品整備を行いました。



「ふるさと甲佐応援寄附金」のお礼の品については各ポータルサイトをご覧ください。▶



H20年度  
153万円

H21年度  
180万円

H22年度  
59万円

H23年度  
85万円

H24年度  
169万円